

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ロックオン・ウレタン	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.650	△RG	0.015	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ロックオン・ウレタン

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：レース・シーサンビャク

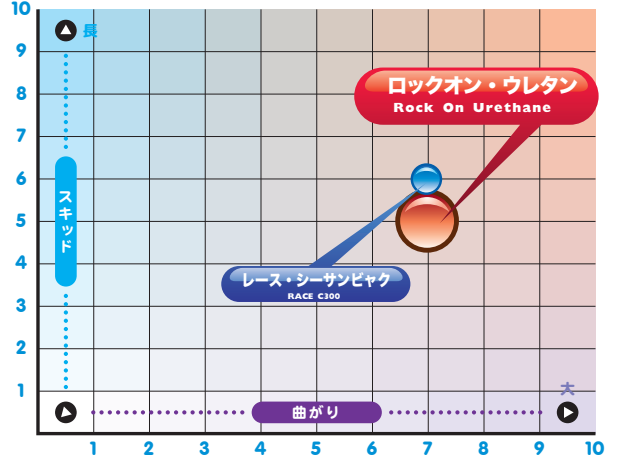
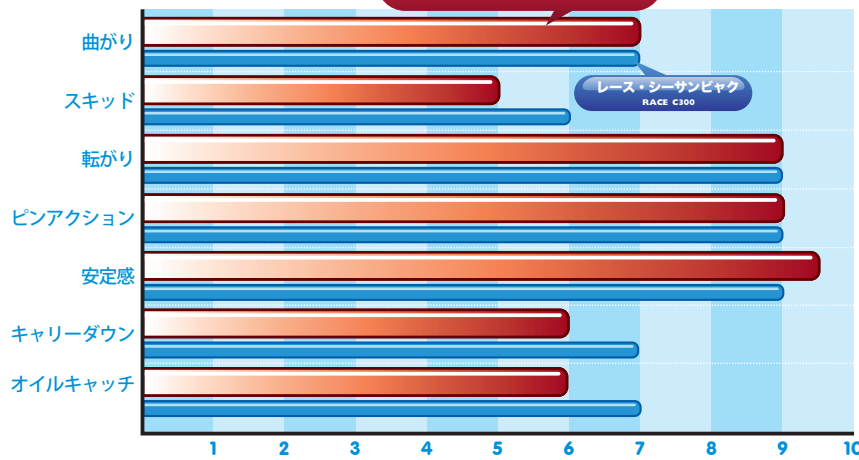
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

PBAでアニマルコンディション導入から特に使用頻度が高くなったウレタン素材のボール。ほぼすべてのブランドからウレタンボールが中、コロンビア社はABSのために最高のボールを用意してくれました。それは今PBAツアーで最も優勝回数の立役者となっているウレタン素材を表面加工を含めてそのまま採用させてくれることになったからです。そのコロンビア社の提案をABSボール開発チームは約20年前一世風靡したボールROCK ONとして復活させることを決め、様々なテストングを重ねてきました。

今まで各社様々なウレタンボールテストングしてきた中で、このROCK ONを投球すると今までのウレタンボールのイメージ何だったのか変わってしまいます。それはウレタン素材の優位性を含め、高吸油性のリアクティブと低吸油性のウレタン素材とはオイルの使い方もラインアジャストが異なります。当然適切なポケットヒットの角度を取るための必要なブレーキングの為のラインを取るわけですが、それは「ストライク率を上げる」アジャストであり、ピンキャリアがリアクティブからやや劣るウレタンボールを使う上で必要な作業だと思っていたのです。しかしこのROCK ONはそのポケットヒットまでの角度調整の大まかな作業を抜いてしまっても良いと思うほど、ウレタン素材とは思えないほどピンの飛び方が今までのウレタン素材とは郡を抜いています。ピンに当たる柔らかさ、薄めのピンとの絡み具合、ミキシング能力、ここだけにフォーカスすれば、ウレタンを使うレーンコンディションで真っ先に候補に上がるであろうボールはPBAでもこのボールが使われるであろう想像が容易につくほど完璧です。

この性能をみせられると、ボールの曲がりかどうだとか説明が一切必要なく、ウレタンが必要なコンディションではROCK ONだという一択というのが投球すればわかるでしょう。

特記事項

ウレタンボールはいまやスポーティーなコンディションやレフティーには必要最低限のアイテムになっています。まずは一つ投げてみて、ピンアップ・ピндаウンの二種類所持は大きな武器になるでしょう。